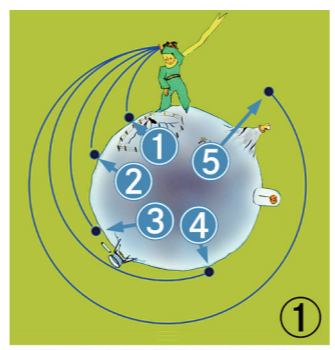


引力の正体?

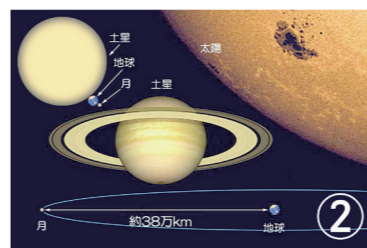
引力は目に見えませんが、海や雪は空から地面へ向かって降るのも地球の引力の仕業です。今回は、この普段あまり気にしない「引力」を使い、土星の環の正体や月と地球、太陽と惑星の関係などについて話したいと思います。

左の絵(図①)は、ボールを投げる王子さまです。ボールはより遠くに落ちました。



ボールを投げる星の王子さま

4回目までは、星の引力によってもボールは地面に落ちましたが、5回目に投げたボールは落ちていきません。最初の4回は速さが足りず、引力で落ちましたが、5回目の速さのボールのカーブがこの星の曲面と同心円になって周りを繰り返すのです。つまり人工衛星も王子さまがボールを投げるようにロケットで加速し、地球を周る目的の円軌道を飛んでいるにすぎないのです。



太陽・土星・地球・月・大きさ比べ
地球の大きさ 1 とし、太陽は109倍
土星は9.5倍、月は1/4倍
土星の環の直径は約38万km

土星の環も地球と月 太陽と惑星と同じ

この王子さまのボールは、約30日間で地球を1周する月や太陽を1年で周る地球、30年周る土星と同じです。人工衛星も同様で国際宇宙ステーションISSは、高度400kmで1時間30分で地球を1周し、24時間で地球を1周する静止衛星(地球の自転と一緒に周っている) 気象衛星ひまわりやBS放送衛星は、高度36千kmの宇宙空間を飛んでいます。

土星の環が消える!?

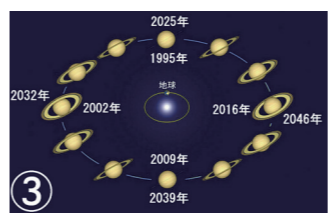
地球の自転軸が少し傾いていくように、土星も約26・7度傾いており、環も同じように傾いています。図③のように、太陽を1周する30年の間、土星の位置によって見え方が変わります。2016年や2046年は、一番傾いた環の上方向から見ることで、2002年や2032年は、

一番傾いた環の下方向を見ることでできます。

ところが、2025年(来年)の土星を見ると環がありません。消えているのです。環が水平になっているのです。

図②でもわかるように土星の環の直径は38万kmと地球も月もすっぽり入るほど巨大ですが、環の大きさをCDだとすると、その厚みは100万分の1mmだといふのですから、ペラペラで、横から見ても見えない。つまり消えてしまうのです。この「土星の環の消失」は、15年後にしか見ることができないものだから、ぜひみなさんも一緒に見ましょう。

最後に、私が2002年に撮った「土星食」直後、土星が月の地平線から出てきた時の写真④を紹介し、終わります。(たじま天文同好会・湯田哲)



2つのイベントがきとねで開催 / 今号では、9月にきとねで開催された2つのイベントについてご紹介します。



きとね
Instagram
はコチラ

【問合せ】
農林課 林業振興係
電話 0241-62-6220



南会津アロマまつり、大盛況のうちに終了しました!

9月15日に開催された「南会津アロマまつり」は、多くの来場者で賑わいました。会場は、アロマの香りが漂う中、多彩なワークショップや体験ブースが設けられ、アロマクラフト作りやアロマオイルを使用したリラックス体験など、子どもから大人まで楽しめる内容が盛りだくさんでした。



また、地元の特産品を販売するブースも大盛況で、来場者の皆さまは南会津の豊かな自然が育む新鮮な農産物や加工品を手に取り、地元の魅力を再発見していました。遠方からも多くのお客様にご来場いただき、地域の魅力を広く発信する場となった今回の「南会津アロマまつり」。今後も、地域の特色を活かしたイベントを通して、南会津の自然と文化をさらに発信していきます。



南会津林業祭、盛大に開催!

9月29日に開催された「南会津林業祭」は、多くの来場者で賑わい、大盛況のうちに終了しました。恒例のクッパやあそ棒体験では、家族連れや友人同士が一緒になって楽しみながら競技に参加し、会場には笑顔があふれていました。

また、木工品の展示販売やワークショップ、木育コーナー、林業体験コーナーなども大変好評で、南会津の豊かな自然と林業の魅力を再確認する場となりました。地元産の木材や自然素材を活用した製品は、来場者に高く評価され、多くの方が体験・購入されていました。南会津の自然と林業の魅力を広く発信する場となった「南会津林業祭」。今後も様々なイベント・ワークショップ等を通して、木の町みなみあいづを発信していきます。

